

全国環境連

1月号



2026年 新年のご挨拶



令和8年(2026年)年頭所感 新たな年を迎えて

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会長 大川 和彦

明けましておめでとうございます。

会員、関係者の皆様には、令和8年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年6月に全国環境連の会長を僭越ながら拝命しましたが、歴史と使命感を持つ本団体の重責を担うこととなり、その責任の大きさを改めて痛感しております。微力ではございますが、全国環境連の発展を通し地域環境の保全・向上に努めていきたいと考えていますので、引き続き、関係者各位には変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、我々業界にとって大きな出来事といえば、昨年1月に起きました埼玉県八潮市の道路陥没事故があります。これは大口径の下水道管の腐食・破損が要因とされ、今後のインフラの更新に対して問題提起されました。この問題に関して、当時の石破総理は「これまでの線で繋いでいたインフラから、点で賄うインフラへ」という発言をされましたが、集合処理から個別処理である浄化槽への整備も一つの選択肢であると示されました。

加えて、国交省主導で下水道等のインフラの老朽化、維持管理コスト削減の事業方式として「ウォーター PPP」が提唱され、この導入が下水道関連の交付金要件となる予定です。官民連携で質の高い運営を実現させることを目的としています。しかしながら加速する人口減少、並びに一極集中による機能停止リスクの影響を十分に考慮して、ダウンサイジングである浄化槽での整備も含め、持続可能で、かつリスク管理可能なインフラで整備されることが重要で、我々業界も大いに期待しているところです。

一方、業界におきましては、燃料や資機材の高騰、賃金アップ、人材不足など事業運営の厳しい状況が続く中、昨年「一般廃棄物処理業務における労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針等を踏まえた対応について」通知が発出されました。価格交渉のための分かりやすい積算根拠資料の作成を進め、事業継続の対策として、し尿及び浄化槽清掃料金を適正な価格に結びつけていく方針で活動してまいります。

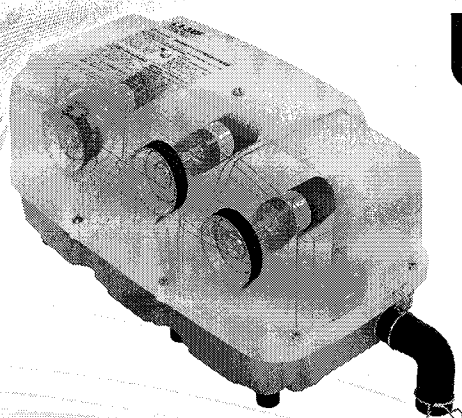
全国環境連は、持続可能で、災害に強く、財政に優しい浄化槽を普及させ、かつその信頼を向上させるべく、本年も必要な取り組みを行ってまいります。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして実り多き年となりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



150L・200L ブロワがリニューアル

リニア駆動フリーピストン方式採用で
消費電力削減・高耐久を実現



NEW
メドーブロー®
LA-150F/LA-200F



低消費電力
最大約19%消費電力を低減(当社比)
電気代節約、CO₂削減に貢献



長寿命
可動部品はピストンのみ
リニア駆動フリーピストン方式を採用



安心
サーマルプロテクタ搭載
異常加熱すると自動停止
(温度が下がると自動復帰)



メンテナンスが容易
フィルタ、ピストン交換は
ネジを緩めるだけの簡単作業



低作動音
屋外、夜間運転を考慮した静音設計

製品外観



リニア駆動フリーピストン方式

長寿命 突然停止しない らくらくメンテナンス

メドーブロー®



ブロワ検索

修理研修受付中/デモ機依頼お気軽に!

技術で、人を想う。

日東工器株式会社

メドー事業部 リニア販売部

〒146-8555 東京都大田区仲池上 2-9-4 Tel:03-5748-5521 Fax:03-3754-0258

www.nitto-kohki.co.jp

新年祝詞

新年の祝詞



環境整備議員連盟会長

衆議院議員 逢沢一郎

新年明けましておめでとうございます。全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆様には、お元気に令和8年の新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。今年も新時代に相応しい循環型社会形成に向け、前進の一年になりますよう、皆で力を合わせて頑張りましょう。どうぞよろしくお願い致します。

昨年の第21回全国大会が、私の地元岡山で「原点から学び“つなげる”サステナビリティ～不易流行～」をテーマに盛大に行われたことは、地域の一員として大きな誇りでありました。大会を通じて、変化の激しい時代においても守るべき原点を忘れず、持続可能な未来を“つなげていく”皆様の熱意を改めて感じました。

廃棄物処理業は、政府の基本方針にも明記されているとおり、「国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務」を担う重要な社会インフラです。その現場で働く皆様は、まさに真のエッセンシャルワーカーです。感染症の流行や災害時にも、地域の衛生と安全を守り抜いてくださった皆様の献身に、改めて深く感謝申し上げます。

一方で、資材・燃料価格の高騰、人手不足、人件費の上昇など、経営環境は依然として厳しい状況にあります。持続的な事業運営を支えるためには、適正な価格転嫁の仕組みを構築し、従業員の

賃金水準を向上させることが不可欠です。国・自治体の発注体制についても、現場実態を踏まえた改善を一層進めてまいります。

同時に、DX・GXをはじめとする技術革新の波が業界にも押し寄せています。AIやIoTの活用による効率化、カーボンニュートラルを見据えた新技術の導入、そして人材育成と働き方改革。これらは単なる時代の流れではなく、循環型社会を次の世代へ確実に“つなぐ”ための必須の取り組みです。皆様が先頭に立って挑戦を続けておられることに、心から敬意を表します。

気候変動に伴う災害の激甚化も深刻さを増しています。地域防災・減災の現場では、水処理や廃棄物処理の専門知識が欠かせません。環境インフラを支える皆様の力こそ、地域の「レジリエンス（強靭性）」の要です。

さらに、廃棄物処理や水処理の課題は世界共通です。日本が培ってきた高度な技術とノウハウを、アジアやアフリカなど途上国の環境改善に活かすことも、私たちの重要な使命です。国際協力や人材育成を通じて、持続可能な地球環境の実現に日本が積極的に貢献していく決意を新たにいたします。

今、私たちは「地域循環共生圏」という新たな理念のもと、地域の資源を地域で循環させる持続可能な社会の実現を目指しています。その中核を担うのが、まさに皆様の活動であります。若手や女性の活躍の場をさらに広げ、次代を担う人材の育成を進めていくことが重要であります。現場で培われた知恵と情熱を結集し、“新しい公共”の担い手として、地域の未来を共に築いてまいりましょう。

本年も、全国の仲間が心をつにし、地域から世界へ「循環と共生の輪」を広げてまいりましょう。皆様のご健勝とご発展を祈念し、新年のご挨拶といたします。

環境省 環境再生・資源循環局

年頭所感

環境省 環境再生・資源循環局

局長 角倉一郎



令和8年の新春を迎えるに当たり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

はじめに、令和7年11月18日の大分市佐賀関の大規模火災、令和7年12月の青森県東方沖を震源とする地震により被災された方々に、改めてお見舞い申し上げます。早急に復旧・復興が進むよう、環境省として災害廃棄物の処理の観点から、全力で支援してまいります。

また、令和6年能登半島地震・豪雨における公費解体は、おかげさまで当初目標の昨年10月末までに概ね完了しました。令和8年3月までの完了を目標とする災害廃棄物処理についても、被災市町への支援に引き続き尽力してまいります。

次に循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行についてです。この1年は、「循環経済への移行加速化パッケージ」に基づく取組が着実に実行に移された1年でした。

まず、昨年11月に再資源化事業等高度化法が完全施行されました。国内の再生材の質と量を確保するため、国が認定した再資源化事業等に対し、後押しする仕組みを創設すること等を内容とするもので、今後3年間で100件以上の事業認定を目指します。

また、製造業と資源循環産業のネットワーク形成や拠点構築に向けた課題とその解決策の調査を開始しています。自動車分野においては、産官学コンソーシアムでの議論を経て、昨年3月に供

給量目標と工程表を含んだアクションプランを公表しました。現在、再生プラスチック集約拠点等の在り方に関する議論を進めており、家電などの他分野への横展開も含めて検討を進めます。

地域の資源循環基盤の強化に向けた取組も重要です。「資源循環自治体フォーラム」を活用した先進事例の共有や資源循環ビジネスのマッチングを全国で創出してまいります。

国際的な観点では、我が国の経済安全保障や相手国の環境改善に資するべく、e-waste リサイクル等を通じた同志国との国際連携を強化しています。特にASEAN地域では、e-waste回収・リサイクル等の法令整備の支援や民間連携・投資促進を進めています。

国際標準化に向けた取組も重要です。昨年11月に開催されたCOP30の場において、企業の循環性指標を含む情報開示スキームである「グローバル循環プロトコル（GCP）」の初版が公表されました。この開発には、環境省も参画し、議論を主導しています。今後も、循環経済の国際ルール形成を主導し、日本企業への投資促進や競争力の強化に向けた取組を継続します。

あわせて、太陽光パネルのリサイクルに係る制度検討・環境整備、不適正ヤード対策・PCBの適正処理・災害廃棄物処理体制強化に係る制度的検討を進めてまいります。

また、東日本大震災からの復興・創生は、環境省にとって最も重要な課題の一つです。帰還困難区域については、2020年代をかけて、「故郷に戻りたい」という御意向のある住民の方々へ帰還できるよう、引き続き特定帰還居住区域の除染や家屋等の解体を着実に進めてまいります。さらに、福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けて、復興再生土の利用等に政府一丸となって取り組むとともに、地域の強みを創造・再発見する未来志向の取組を推進します。

今後とも、環境再生・資源循環行政の一層の推進のため、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹賀新年

旧年中は格別のご高配にあずかり、ありがたく厚く御礼を申し上げます。本年のご多幸をお祈り申し上げます。

令和8年 元旦

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会 会長 大川和彦

鹿児島県環境整備事業協同組合

宮崎県環境整備事業協同組合

熊本県環境整備事業協同組合

大分県環境整備事業協同組合

福岡県環境整備事業協同組合連合会

山口県環境整備事業協同組合

島根県環境整備事業協同組合

鳥取県環境整備事業協同組合

岡山県環境整備事業協同組合

長野県環境整備事業協同組合

栃木県環境整備事業協同組合

福山市環境事業協同組合

令和8年 年頭所感

環境省 環境再生・資源循環局

廃棄物適正処理推進課長 杉本留三



令和8年の新春を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆様方におかれましては、日々、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の清掃等、生活環境の保全及び公衆衛生の向上のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表するとともに、廃棄物適正処理・資源循環行政の推進に格段の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も、九州地方を中心に大きな被害のあった令和7年8月の大雨をはじめ、台風、大雨等により、全国各地で災害に起因する被害が多く発生しました。お亡くなりになられた方々に対し、心より御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。

頻発する災害に対し、適正かつ円滑・迅速な災害廃棄物処理の実施や、平時からの体制整備が一層の急務となっています。環境省では、貴連合会にも御参画いただいている災害廃棄物処理支援ネットワーク（D.Waste-Net）や、災害廃棄物処理経験を有する自治体職員を登録する「災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）」などによる被災自治体支援体制の充実を図っています。災害時には、全国の自治体や一般廃棄物関係団体、民間事業者等の御協力もいただきながら、被災自治体への災害廃棄物処理支援を行っています。

また、昨年は、災害廃棄物対策推進検討会において、令和6年能登半島地震をはじめとする災害廃棄物対応の検証等を行い、「今後の巨大地震や集中豪雨等の発生に備えた災害廃棄物対策の更なる取組の方向性」についてとりまとめました。そのうち制度的措置に関する事項については、中央環境審議会の下に設置された「廃棄物処理制度小委員会」において審議を行っているところです。

今後も、自治体による災害廃棄物処理計画の策定及び改定の支援や、国、地方自治体、関係機関等との連携協力の促進など、災害に強い廃棄物処理体制の構築に向けた取組を更に進めてまいります。

一般廃棄物の適正処理は、生活環境の保全及び公衆衛生の向上の観点から厳然として不可欠であり、今後も更に推進する必要があります。

廃棄物処理事業を確実に実施し、構造的な質上げを実現するため

には、昨今の物価の状況なども踏まえた適切な委託料・処理料金が事業者に支払われることが重要です。令和6年9月30日付けで、一般廃棄物処理業務における労務費、原材料費、エネルギーコスト等の適切な転嫁のための重要事項についてとりまとめ、必要な措置の実施に努めることを各都道府県知事宛に通知しました。加えて、同通知を受けた市町村の対応状況等についてフォローアップ調査を行い、令和7年10月に調査結果及び調査結果を踏まえた留意事項について各都道府県に対し周知しました。各都道府県に対しては、同通知を踏まえ、引き続き一般廃棄物処理業務における労務費等の適切な転嫁のための必要な措置の実施に努めるとともに、改めて同通知の趣旨及び内容について、管内市町村に対し、周知徹底をお願いしているところです。引き続き、同通知の趣旨等に加え、一般廃棄物処理に関する市町村の統括的責任の重要性、市町村の一般廃棄物処理計画を踏まえた廃棄物処理法の適正な運用について、周知を図ってまいります。

一般廃棄物処理施設は、平常時及び災害時を通して一般廃棄物の処理を適正かつ着実にを行い、地域の資源循環を支えるとともに、地域創生の基盤となる重要な社会インフラです。廃棄物処理法に基づく基本方針や廃棄物処理施設整備計画等を踏まえつつ、防災・減災や国土強靭化、廃棄物エネルギーの利用等の観点からも、循環型社会形成推進交付金等で支援することにより、早急かつ適切な更新を進めてまいります。

循環型社会形成推進交付金等による支援では、浄化槽の整備も重要です。環境省では一昨年11月に取りまとめた有識者検討会の報告書を踏まえ、特定既存単独処理浄化槽の判断基準の明確化、デジタル化事例集や指導・助言マニュアルの作成、予算面のメニュー強化など、これら課題への具体的な対応を進めてまいりました。

また、令和6年8月には、循環型社会形成に向けた政府全体の施策を取りまとめた国家戦略として、第五次循環型社会形成推進基本計画を策定しました。本計画に基づき、多種多様な地域の循環システムの構築と地方創生の実現に向けて、廃棄物処理施設の整備や広域化・集約化、特性に応じた効果的なエネルギー回収技術の導入等を推進してまいります。

本年も、昨年に引き続き、災害廃棄物を含めた一般廃棄物の適正かつ円滑な処理を推進するとともに、循環型社会と脱炭素社会との統合的実現に向け、全力を尽くしていく所存です。

皆様におかれましても、廃棄物・資源循環行政に変わらぬ御支援、御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

最後に、この一年が皆様方にとって大いなる飛躍の年となりますよう、心から祈念いたしまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

「年頭所感」

環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課

浄化槽推進室長 竹谷理志



新年明けましておめでとうございます。

平素より浄化槽行政の推進に御理解、御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。また、浄化槽の整備や維持管理を通じて、生活環境の保全や公衆衛生の向上に多大な貢献をいただいている皆様に対して、改めて感謝申し上げます。

我が国は現在、汚水処理インフラの老朽化や本格的な人口減少といった、社会情勢の大きな変化に直面しています。従来からの汚水処理未普及地域への整備のみならず、近年では、更新時期を迎えた集落排水施設等を浄化槽に転換した静岡県南伊豆町のような事例や、能登半島地震の被災地である石川県珠洲市において、下水道整備済区域だった地区を浄化槽に転換する事例が見られるようになってきました。こうした動きは今後も拡大が見込まれ、コスト面や設置期間の観点から分散型処理施設である浄化槽の果たす役割はますます大きくなってまいります。環境省としても関係省庁と連携しながら、各地域の状況を踏まえた持続可能な汚水

処理施設の整備を後押ししていきます。

一方、未だに約336万基が残存している単独処理浄化槽からの転換や、適正な維持管理（保守点検・清掃・法定検査）の確保など、浄化槽行政には依然として多くの課題が残されています。環境省においては、一昨年11月に取りまとめた有識者検討会の報告書を踏まえ、特定既存単独処理浄化槽の判断基準の明確化、デジタル化事例集や指導・助言マニュアルの作成、予算面のメニュー強化など、これら課題への具体的な対応を進めてきました。加えて、能登半島地震の教訓を生かし、浄化槽の大規模被害を想定した平時からの災害対応力を強化するため、ブロック単位での災害協定の締結に向けた取組も後押ししています。

浄化槽の普及には信頼性の確保が不可欠であることから、引き続き施策の周知徹底に努めてまいります。

この他に、議員立法による浄化槽法改正を目指す動きなどもあり、浄化槽行政は令和元年以来の大きな変化の時期を迎えつつあると感じています。関係者の皆様には、協議会の設置をはじめとする相互の連携強化に向けた取組を引き続きお願いいたします。

様々な課題はありつつも、浄化槽というシステムが持つ価値に揺らぎはありません。環境省としては、令和8年度の汚水処理施設の概成後も見据え、持続可能な浄化槽システムの構築に向けて、関係者の皆様と手を携えて取組を進めてまいります。本年も御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

各県の会長・理事長

新年のごあいさつ

鹿児島県環境整備事業協同組合
理事長 宮地 光弘

あけましておめでとうございます。
全国環境連の会員、関係者の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃よりご指導、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、当組合の昨年を振り返りますと、ある国会議員の発言が大きな波紋を広げました。本県の維持管理業者の信用を著しく毀損しかねないもので、環境省も現地に足を運ばれ、その発言のような疑念を抱かれる点はないことを確認いただきました。全国環境連の皆様からも様々なアドバイスをいただきながら、その議員と協議の場を持ち、本県の全ての同業者が署名した抗議文を渡した上で、国会での発言の訂正を求めるとともに、本県の浄化槽の維持管理業界の取組、方向性を説明したところです。

また、本県においては、昨年8月に始良市と霧島市で豪雨災害が発生し、浄化槽への土砂流入などの被害が出ました。県や環境保全協会と連携して復旧対応が行われましたが、初動対応や国の事業の活用など課題も認識できました。当組合も市町村と個別に災害時におけるし尿等収集運搬に関する協定を締結する取組を進めています。今や全国各地で短期集中的な豪雨が頻発し、適切な災害対応が求められているところであり、こうした経験を経験者や行政と共有し、今後の被災支援につなげていきたいと考えています。

一方、浄化槽の処理方式や構造等が多様化している中、浄化槽維持管理技術研修会を開催し、環境保全協会から本県における型式ごとの水質悪化の原因発生率を学んだ上で、浄化槽製造業の皆様と対面で、浄化槽の型式毎に質問や意見、疑問などを率直に意見交換しました。このように日常の点検業務において適正な水処理が常に維持できるよう研鑽に努め、地域社会の健全な水環境を守ることを通じて、生活環境の保全や公衆衛生の向上に取り組んでまいります。

昨今、全国各地でクマの人の生活圏への出現が相次ぎ、市民生活に大きな影響を与えていますが、本県でもサル、イノシシなどが、中山間地域だけでなく都市部にも度々出現しています。これは農林業の衰退や過疎化などの社会の構造変化のみならず、温暖化等の気候の変化も要因とされています。環境保全は喫緊の課題であり、私共も環境を守る一員として、所掌する水環境の保全に全力で取り組んでいかなければなりません。

本年も当組合が、今後一層の地域貢献ができるよう組合員と活発に議論や対話を重ねて事業活動を展開するとともに、次世代のリーダーの育成や活用も図りながら、積極的に活動してまいります。

終わりに、大川会長を中心とした全国環境連の更なる発展と会員の皆様の益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

宮崎県環境整備事業協同組合
理事長 岩本 晋時

明けましておめでとうございます。
皆様には新年を迎え、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年は、全国環境連第21回全国大会が岡山県で開催されました。今回の全国大会では「原点から学び“つなげる”サステナビリティ～不易流行～」をテーマに、技術革新の推進、社会的責任の強化、環境教育と啓発、持続可能な経営、防災と減災の対策の5つの取り組みを通じて、循環型社会の構築を目指し、安心して安全な生活環境を次世代に継承し、新しい時代にふさわしい意識と行動をもって地域と共に未来を切り拓くことを宣言しました。21世紀は環境の世紀と言われる中、経済情勢や国等の動向を踏まえながら、将来を見据えた意識改革に努めると共に、適正業務の遂行、経営基盤の安定、次世代を担う人材の育成など一丸となって取り組んでいくことが必要です。

近年、毎年のように自然災害が発生し、災害廃棄物に対する事前の重要性が改めて認識されています。災害廃棄物に対する平時の備えを充実するとともに自治体による災害廃棄物処理計画の策定支援、県市町村との災害協定や連携協力の促進など、災害に強い廃棄物処理体制の構築に向けた取り組みを進めていくことが求められています。

さて、全国の汚水処理人口普及率は令和6年度末現在93.7%に達していますが、人口5万人未満の自治体においては84.5%と低い状況にあります。都市郊外や地方部において効率的な整備が可能な浄化槽の特徴を十分に活かし、汚水処理施設の未普及解消を進める必要性があり、特に単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換の加速化に取り組むことが重要となります。さらに浄化槽による適切な汚水処理サービスを持続的に提供するためには、浄化槽設置後の適切な維持管理が必要であり、そのためには関係者が連携してデジタル化された維持管理データを収集・整備し、活用していくことが効果的と考えられます。人口減少及び少子高齢化が進むことで、関係技術者の確保が困難になることを見据え、生産性の向上を目指してデジタルフォーメーション(DX)を推進することが浄化槽分野にも求められます。

最後になりますが、本年も皆様方のご指導、ご鞭撻の程をお願いすると共に、全国環境連の皆様がますますのご繁栄とご多幸を心からお祈りいたしまして新年の挨拶といたします。

熊本県環境整備事業協同組合
理事長 犬童 英昭

明けましておめでとうございます。
全国環境連会員の皆様には、日頃から格段の御厚情、御支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年3月、一昨年に迎えた当組合の創立50周年の記念事業の締め括りとして記念誌を作成し、全国環境連の皆様をはじめ関係各位へ進呈させていただきました。これまでの組合及び組合員の活動の歴史と現時点の状況を記録し、関係者の皆様と共有しながら次世代の組合員に引き継ぎ、私たちの事業と地域の発展に寄与することを願う趣旨でしたが、あらためて時代や世相の変化と世代交代を感じさせるものとなり、これから迎える未来に対して身が引き締まる思いを感じるものとなったように思います。

そのような感慨も束の間、8月に、連続的な線状降水帯の発生により、熊本県内でも各地で令和2年豪雨以来の大きな被害が相次ぐ事態となりました。被害は死者4名、住宅被害8千3百棟以上に及び、犠牲となられた方や被災された方を思えば、誠に心痛に堪えません。当組合員においても、保有するバキューム車が全て水没するなどの重大な被害が生じましたが、組合員同士の連携や応援もあり、何とか乗り越えつつあります。被災地域の復旧には、まだまだ時間と労力を要しますが、組合員一同、被災した地域と住民に寄り添いながら、1日も早い復旧に向けて尽力する所存です。

同じ8月の末に、昨年の組合の重要事業として、県・市町村の行政担当者と関係事業者を対象にして、「今後の汚水処理の行くえと熊本に求められる対応」をテーマとしたセミナーを開催いたしました。豪雨災害後、間も無い時期ではありましたが、こういう時にこそ災害に屈しない柔軟さと団結力を持った業界であることをお伝えしたいという思いから、敢えて開催を決断したものです。セミナーでは、環境省の沼田正樹氏と全国環境連顧問の国安克彦氏を講師に迎え、法改正へ向けた検討が進められている浄化槽行政の動向と、概成後の下水道サービスの再構築の2題を講演いただきましたが、幸い100名超の参加があり、盛会の裡に終了することができました。

また、昨年中、地元組合員と連携して県下の市町村長を訪問し、ご挨拶に併せて、物価や人件費の高騰による事業者の窮状を説明し、手数料や委託料の見直し等、業界へのさらなる配慮を要望しております。

今後も、次の時代を視野に入れて、浄化槽やウォーターP.P.Pを含めた汚水処理に係る国や自治体の動きを注視しつつ、組合員及びその従業員的生活を守り、業界を取り巻く環境の改善に向けて、より一層努めていく所存です。

最後になりますが、熊本の美しい水環境を将来へ継承していくため、当組合としても、今後も真摯に業務と向き合いながら、新しい時代のツールを取り入れつつ経営と技術の革新を進め、次世代の育成や意識改革などに積極的に取り組んで参ります。

本年も全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会並びに各県組合が、より一層発展致しますよう祈念申し上げますとともに、熊本県がその一翼を担えるよう、努力して参りますので、関係各位におかれましては、昨年同様、一層のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

大分県環境整備事業協同組合
理事長 穴南 幸司

令和8年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。また、平素より全国環境連会員の皆様方におかれましてはご指導、ご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」と申しますが、皆様方がそれぞれの理想と目標を掲げ、新たな気持ちでスタートをされたこととご推察致します。今年度は全国環境連の理事・執行部も新たな編成となり、有形無形併せて大先輩の方々が進み上げてこられた不屈の精神をしっかりと踏襲していく体制が構築されました。

また、昨年11月11日には大分県大分市ホテル日航オアシスタワーにおきまして、大分県組合の創立50周年記念祝賀会を開催致しましたところ、多くの方々のご臨席を賜りましたこと、ここに改めて感謝申し上げます。

このような節目を迎える時には万感の思いに多くの記憶と皆様のお顔や交わした言葉が鮮明に蘇り、成さねばならないと新たな思いが湧いてまいりました。留魂録冒頭の句である「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」は人や形は変われどその精神は脈々と培われて行くことを示し、また「衣鉢相伝」や「青は藍より出でて藍より青し」で表されるように、立場ある私共もまた、次世代を担うべき創造力を持ち人間力溢れる人材育成を行っていかねばなりません。

さて、私事で恐縮ですが、昨年も多くの「ご縁」を頂きまして、人と人との繋がりの中で実に有意義な学びをさせて頂きました。今年も感謝の気持ちを持つ・ポジティブな思考・自分磨きを行い自己肯定感を持つ・何よりも心身ともに健康でいることを念頭に「良縁」の中で学ばせて頂きたいと考えております。

業界事情についてはご承知のように浄化槽維持管理体制の強化や、法改正を含む他団体の活動や集合処理になり代わる新たな浄化槽の在り方が模索をされ、経済的合理性が図られようとしている等、新たな局面を迎えようとしています。また、企業の持続的な経営基盤確保の重要なファクターである雇用の確保と労働環境の改善は喫緊の課題であり、経営者のより大胆な発想と経営力が求められます。

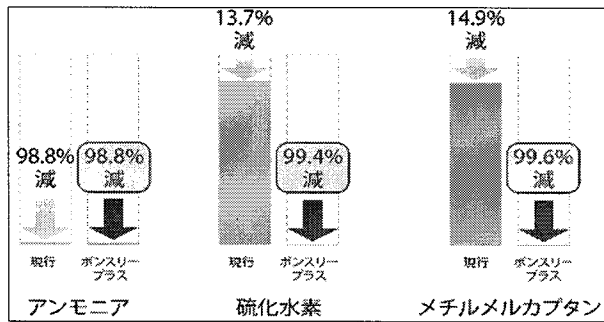
括りとなりますが、全国環境連の更なる連携の強化と強固な体制を構築するには、皆様方の更なる意識の向上とご協力が不可欠であります。新たにバトンを受けられた大川会長を中心とした全国環境連の発展と、各県組合員の皆様方の多方面におけるご活躍を心からご祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

MORITA

消臭効果の大幅向上・低コスト・簡単！

ボンスリープラス

硫化水素、メチルメルカプタンの消臭効果が従来品より大幅に向上！



環境保全車両の開発・製造・販売

株式会社モリタエコノス

Webサイトはこちら



このQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。
アクセス解析は匿名で収集されており個人を特定するものではありません。
この機能はCookieを無効にすることで、Cookieを用いた収集を拒否することができます。
お使いのデバイスのブラウザの設定を確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

生ゴミ臭対策に

ミラクルキヨラ

専用香料で不快な悪臭を爽やかな香りに！



金沢から
全国、海外に・・・
誠意と信頼の
ネットワーク



■取扱商品

エアーポンプブロー ガス検知器・送排風機
電動工具・制御機器・記録紙 水中ポンプ・陸上ポンプ
配水管清掃機器・薬剤 浄化槽関連部品・FRP補修剤
給水ポンプ・薬注ポンプ 各種産業用ベルト・ホース
マンホール・その他 水質検査器・理化学機器 浄化槽用消毒薬・維持管理剤

水処理関連機器の総合商社

即答即配システムが当社のモットーです。



株式会社 日環商事

本 社 〒920-0333 石川県金沢市無量寺5丁目75番地
TEL:076-268-1771(代) FAX:076-267-5348
FAX専用 フリーダイヤル 0120-617-718
E-mail:info@nikkan-shoji.co.jp
http://www.nikkan-shoji.co.jp
四国営業所 〒769-0103 香川県高松市国分寺町福家甲196番地1-101
TEL:087-813-7621 FAX:0120-617-718
九州営業所 〒812-0861 福岡県福岡市博多区浦田1丁目21号-7
TEL:092-558-4828 FAX:0120-617-718



福岡県環境整備事業協同組合連合会
会長 永野 孝明

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会会員の皆様方には、ご家族共々輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

昨年の夏も日本中記録的な暑さが続き地球温暖化を実感する毎日が続きました。35度以上の猛暑日が続き県内各地で熱中症アラートが連日発出され、熱中症予防対策の徹底強化を取りながらの業務が続きました。

昨年6月1日から改正労働安全衛生規則が施行され、熱中症対策が強化され、熱中症のおそれのある労働者の早期発見、適切な対処を目的として、「報告体制の整備」、「実施手順の作成」、「関係者への周知」が事業者には義務付けられ、対策を怠った場合には罰則が設けられました。

このようなことから、一般社団法人福岡県経営者労働福祉協会が開催する「熱中症予防指導員研修」を青年部員が受講し発生予防と発生時の症状及び適切な処置を学ぶ指導員として対策の徹底を図っています。

さて、令和6年度末における全国の汚水処理施設の処理人口は、1億1,613万人であり、汚水処理人口普及率は93.7%となった一方で約780万人が汚水処理施設を利用できない状況にあり、人口5万人未満の市町村の汚水処理人口普及率は84.5%と全国平均から遅れている状況にあります。福岡県の汚水処理人口普及率は94.9%となっています。

未普及地域においては、合併処理浄化槽で整備を進めれば安価で短期間で整備ができ財政にも優しく、災害に強い浄化槽の一層の整備促進と拡大と単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を進め、災害避難所等での活用を進めるとともに適正な維持管理清掃の確保が求められています。

福岡県においては、改正浄化槽法に基づき、浄化槽の設置情報と法定検査情報を統合した「福岡県浄化槽システム」が整備され保守点検・清掃の実施時期・点検回数「維持管理情報」についても収載し浄化槽の整備や適正管理の推進に活用し各業者からの報告体制の確立を進めて行きたいと考えています。我々は、協議会の一員として積極的に協力し、汚水の適正処理が促進され浄化槽の更なる推進に寄与して行きたいと考えています。

また、福環連では補償獲得を最重要課題として取り組んできたことから料金交渉を封印し30年近くなり、賃金アップ、資機材費高騰、燃料代高騰、人材不足等、事業経営に厳しい状況に進んでいます。「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」通知が環境省と総務省から発出されたことから県による市町村へのアンケート調査、廃棄物業界団体へのヒアリング等も行われ、各市町村長へ「一般廃棄物処理業務における価格転嫁について(要請)」の通知も発出され適切な対応をするよう要請しています。今後、各単協で料金交渉が始まり適正な料金体制が進むことに期待しています。

終わりに、本年も皆様方のご指導、ご鞭撻の程をお願い致しますと共に、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会会員の皆様方、益々のご発展とご健勝を祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。



山口県環境整備事業協同組合
理事長 山田 幹二

あけましておめでとうございます。全国の会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より組合活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

能登半島地震発災から二年を経ても復興への険しい道のりが続く中、私たちは住民の生活環境や公衆衛生を確保するため、生活の中で必ず発生する「し尿」や「ごみ」を適切に処理するという一般廃棄物処理業の原点を改めて認識いたしました。

災害時には、平時と有事の業務を並行して実施する必要があるため、事前の体制整備が不可欠です。さらに昨年は下水道管路の老朽化問題が表面化したしました。災害同様、いつ何が起こるかわからない状況です。今後はこれまで以上に下水道に関連した支援事業も増えてくることと予想されます。

山口県においては、かねてより注力してきた県内全市町との災害協定締結が、達成目前までできております。し尿を含む汚水全般に対し、適切な支援活動が行えるよう、組合と組合員間の相互支援体制を盤石なものとしつつ、全国環境連の一員としても緊急時の備えに改めて臨んでいく所存です。

また、一般廃棄物処理業務の安定的な遂行を図る上で、労務費等の適切な価格転嫁は喫緊の課題です。第21回全国大会の環境省講演の中でも、廃棄物処理業の構造的な賃上げを実現することはもちろん、業務の確実な履行についても力強く発信されておりました。当組合は、今後も行政との良好な関係を維持し、この指針の趣旨に基づき、適切な予定価格の作成や契約変更の実施など、必要な対策が講じられるよう連携してまいります。

浄化槽行政では、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換促進に加え、維持管理の確実性を高めるための取り組みが進んでいます。転換促進について、山口県においては、特に防災拠点施設から優先的に進めていただくよう要望をしております。下水道よりも災害に強いとされている浄化槽も、能登半島地震における被害は大きく、復旧にあたってその課題が浮き彫りになりましたが、台帳の整備や維持管理情報の適正管理は業界自体が抱える大きな課題であります。

最後になりましたが、本年も大川会長を中心に一致団結し、全国環境連並びに各県組合がますます発展いたしますよう祈念申し上げますとともに、会員の皆様のご多幸とご健勝を心より祈念申し上げますとしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



島根県環境整備事業協同組合
理事長 米山 二郎

明けましておめでとうございます。
昨年、政治の世界においては長らく裏金問題をはじめ、コメ不足などの物価高騰に対する対応策の遅れにより、相次ぐ国政選挙などで自民・公明の連立与党政権が大きく過半数を割り込んだことから、自民と維新が新たに連立を組み高市政権へと変わるなど、大きな政局の転換がはかられた年となりました。

また、私ども島根県環境整備事業協同組合にとりましては、節目となる創立50周年を迎え、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会大川和彦会長をはじめ、県内行政、関係団体、関係業者の皆様など多数の来賓の方々にお出でいただき、お祝いの言葉を頂戴いたしましたこと、心より感謝申し上げます。

さらに、永らく国・県の役員を務められた故野津勝男前理事長をはじめ、県の役員や、組合員として永く代表を務められている方々へも感謝状を贈り、これまでの当組合の運営等にかかわっていただいたことに対し感謝の意を表することができました。そして、今後ますます人口減が進むなか、合併処理浄化槽の整備・転換を進めていくことなど、様々な社会情勢の変化への対応も必要となり、組合員一同、今後もいかに継続的に社会に貢献し、我々団体の健全な発展・育成を図っていくのか、各々で改めて考える良い機会になったと思った次第であります。

さて、第21回全国大会は晴れの国岡山において開催されました。全国の多数の仲間との再会に感謝しつつ、立派に運営いただいた岡山県環境整備事業協同組合様に敬意を表するものであります。

株式会社日本総合研究所主任研究員篠谷浩介氏の講演では、今後の日本の人口の減少は、世界に比べて早期に落ち着くこととなり、今後は、AIが更なる進展に伴いエリート層にとってかわることとなるため、エリート層の収入は減少に転じるものの、今、我々が占めているエッセンシャルワーカーなどAIの代替が効かない分野においては、一層重要性が増し、ますます収入が上がるが見込まれていると述べられたことに、今後の我々の団体の未来に明るい展望が開けたと感じたのは、私だけではないと思います。

終わりに、本年も全国環境連並びに各県組合がより一層発展いたしますよう祈念申し上げますと共に、本県組合もその一翼を担えるよう努めて参りますので、皆様方の一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



岡山県環境整備事業協同組合
理事長 牧 生夫

あけましておめでとうございます。
全国環境連の会員の皆様には、すがすがしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年は岡山市で開催しました第21回全国大会につきまして、多くの方にご参加をいただき盛会に開催できましたことを厚くお礼申し上げます。

本大会は、テーマを「原点から学び「つなげる」サステナビリティ」に、またサブテーマを「不易流行」に開催したところがあります。講演会では、環境省廃棄物適正処理推進課本留三課長より「廃棄物・資源循環行政の最近の動向について」と題し、廃棄物処理計画の適正な策定及び運用の徹底、廃棄物の発生抑制と適正な循環的な利用・処分による循環型社会づくり、浄化槽について集合処理から個別処理へ向けた取組、国際展開等幅広く最新の情報を提供いただいた。また、(株)日本総合研究所篠谷浩介主任研究員より、「不易流行～変わらないものと、変わらざるは済まないもの～」と題し、少子化・高齢者の増加・リン肥料の循環不全・淡水の不足等の循環の破壊について世界的な観点から日本の現状につき講演をいただき、不易の再構築として「モノの循環再生の再構築」の重要性を再認識したところがあります。

大会式典では、優良役員・従業員として46名と多くの方が受賞されましたこと誠にありがとうございました。ただ少し残念でありましたのが、政治日程の関係で出席予定の国会議員の先生方が欠席となられたことであります。懇親会のアトラクションは、オープニングで高校生による和太鼓、またキッズ達によるダンス、蝦名宇魔さんによる津軽三味線と幅広いメニューを揃えましたがどうでありましたか。さらには、予定になかった司会者住宅正人様及び参加者によるちくわ笛演奏も行われるなど、終始和やかな雰囲気で行進できたのではないかと考えております。これも、実行委員会委員、青年部員、全国環境連の役員をはじめ関係者皆様のお陰であると感謝申し上げます。

令和8年の干支は、丙午（ひのえ うま）であります。丙（ひのえ）は、太陽のような明るさ、情熱、決断力を象徴し、生命の力強い成長段階を表しています。午（うま・馬）は、力強く駆け抜ける姿から、新しい一年を勢いよく切り開く「活力」や「前進」の象徴とされておりまして、丙午の年は、「勢いとエネルギーに満ちて活動的になる」年として考えられます。

干支にちなみまして、全国環境連並びに各県組合の皆様がますます発展されますこと及び会員の皆さまのご多幸・ご健勝を祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

溶存酸素計 DO計	pH/ORP計	MLSS/界面計	塩素イオン計
ガルバニ式センサー交換タイプ DO-11Z 測定範囲 DO : 0.00~20.00mg/L 飽和率 : 0~200% 水温 : -5.0~50.0℃	pH/ORP計 KP-11Z 計量法型式承認 本体:第SS242号 電極:第SS251号 測定範囲 pH : 0.00~14.00 pH ORP : 0~±1999mV(KP-11Zのみ標準) 温度 : 0.0~50.0℃	MLSS/界面計 SS-10Z MLSS計 SS-10F 測定範囲 MLSS : 0~20000mg/L 水深 : 0.00~5.00m (SS-10Zのみ)	測定レンジ自動切替機能付 CL-11Z 測定原理 固体膜塩素イオン電極法 測定範囲 : 0.1~2000mg/L

その他の営業品目
濁度計、色度計
UV-COD計、導電率計

KRK 笠原理化工業株式会社
〒340-0203 埼玉県久喜市桜田2丁目-133-8 TEL.0480-38-9151(代) FAX.0480-38-9157
<https://www.krkjpn.co.jp>

臭気改善で住み続けられるまちづくりを

衛生車・吸引車の臭気対策に
デオマジック®VC1 オイル
DEOMAGIC® VC1 Oil

デオマジック®VC1オイルは糞便臭を甘い香りに変化させる潤滑油です。
作業者様や地域住民の皆様にご好評です。

●お得! 脱臭剤が不要になります。
●簡単! 今お使いのオイルと同様に定期的な交換だけ。
●新技術! 不快臭を取込んで良い香りに変える技術。

消臭のメカニズム
●DEOMAGIC
臭いを取り込んで、臭いを取り除く。臭いを取り除く。臭いを取り除く。

お問い合わせ先
東邦車輛株式会社 横浜部品営業所
〒230-0003
神奈川県横浜市中区磯子区尻手3丁目2番43号
TEL: 045-575-5241/ FAX: 045-575-3271
Email: deomagic.vc1@shinmaywa.co.jp

営業本部 TEL: 045-575-9901
横浜本部 TEL: 045-575-9902
横浜本部直販課 TEL: 045-575-9253
北海道支店 TEL: 011-633-7101
東北支店 TEL: 022-782-5040
仙台部品出張所 TEL: 022-782-5065
北関東支店 TEL: 048-660-5590
茨城営業所 TEL: 0298-22-5569
関東支店 TEL: 03-2843-3351

信越営業所 TEL: 025-283-6571
中部支店 TEL: 052-218-5123
金沢営業所 TEL: 076-266-2203
近畿支店 TEL: 0798-52-2100
東邦車輛サービス TEL: 072-433-2401
中国支店 TEL: 082-890-2882
九州支店 TEL: 092-441-1951
福岡県営業所 TEL: 092-441-0634
南九州営業所 TEL: 099-252-2070



奈良県環境整備事業協同組合
理事長 菊地 豊 樹

あけましておめでとうございます。

全国環境連会員の皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、日本にとって様々な難題が立ちはだかった年となりました。政治面では首相交代とその後の政策転換が注目され、経済面では物価高騰と米問題が国民生活に大きな影響を与えました。さらに、環境面では熊問題が新たな社会問題として浮上し、都市近郊の安全や人間と野生動物の共存についての議論が高まりました。

一方で、私たちの組合には「後継者問題」という大きな課題がございます。少子高齢化の影響を受け、若い担い手の確保が難しくなっている現状は、地域の環境保全を持続させるうえで深刻な問題です。浄化槽清掃は目立たない仕事でありながら、地域の衛生と安全を支える不可欠な役割を担っています。この使命を次世代へと確実に引き継ぐためには、若い人材が誇りを持って働ける環境づくりが欠かせません。今年は、研修制度の充実や働き方の改善を通じて、後継者育成に一層力を注いでまいります。

また、行政との連携強化も重要な課題です。浄化槽の維持管理は地域の公衆衛生に直結するものであり、行政と組合が一体となって取り組むことで、より効果的な環境保全が可能となります。近年、環境意識の高まりは社会全体に広がりを見せています。私たちの活動もその一翼を担うものであり、浄化槽清掃を通じて「水を守る」「暮らしを守る」という使命を果たすことが、循環型社会の実現につながります。資源を大切に、環境負荷を減らしながら持続可能な地域を築くことは、次世代への責務です。組合員一人ひとりがその意義を再確認し、誇りを持って業務に取り組むことが、環境保全の輪を広げる力になると信じております。

最後になりますが、大川会長を中心に一致団結し、全国環境連の更なる発展と会員の皆様のますますご発展と健康で実りある一年となりますことを心より祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



長野県環境整備事業協同組合
理事長 堀内 健 吾

明けましておめでとうございます。令和8年の新春を迎えること謹んでお喜び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私たち一般廃棄物処理に携わる事業者は、地域の衛生と生活基盤を支える重要な使命を担っております。特に昨今は、人口減少や担い手不足、設備更新負担の増大、災害時対応など、多くの課題が全国で顕在化しております。その中にありながら、各地域の組合員の皆様が日々の業務に誠実に取り組み、安全と安心を陰で支えていることに心から敬意を表します。

長野県環境整備事業協同組合としても、これまで培ってきた地域密着の取り組みをさらに発展させ、行政との協働をより一層深めてまいります。また、後継者育成や事業継続力の強化、ICTを活用した効率化など、時代が求める変化への対応も進め、組合全体として未来に備えていく一年としたいと考えております。

さらに、全国環境連の皆様との連携は、地域では得られない気づきや知見を共有し合える大変貴重な機会です。各地で異なる課題を抱えつつも、それらを乗り越えるための知恵や工夫を共有し合い、業界全体の発展につなげていくことこそ、私たち協同組合の大きな意義であると感じております。本年も全国の皆様と力を合わせ、より良い環境整備体制の構築に取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして健康で幸多き一年となりますことを心より祈念申し上げますとともに、私たちの業界がますます社会に貢献できるよう、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

発 行 者

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24 AKビル5階B



全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
会長：大川和彦

TEL 03-5207-5795 FAX 03-5207-5796
年間購読料 2,200円 1部 220円 消費税含

し尿収集容量表示計 KANTARO® 環太郎

“環太郎”は収集量の正確な計測と、料金の明瞭化でし尿処理業務の最適化を推進します。

簡単操作で 速くて 正確 そして 安価!

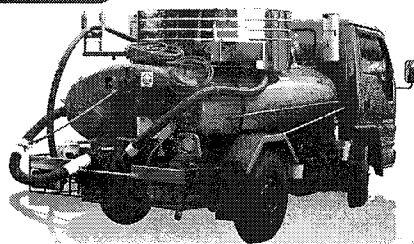
特許：第2736403・第5742875

◆ 取り付けが簡単!

◆ 安 価!

◆ 高 精 度!

シンプルな構造で、空気/液体分離用タンクや計量器のロードセルは不要。出張取り付けも可能です。



実績24年 ありがとうございます

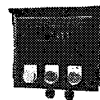


IC Measuring Instruments Co., Ltd.

アイシー測器株式会社

URL <http://ic-sokki.sakura.ne.jp> E-mail ic-sokki@arion.ocn.ne.jp

本社/〒664-0063 大阪府吹田市江坂町2丁目14-46
TEL.06-6384-1543(代) FAX.06-6338-8557



収集量表示計